

## ② 北海道はスキー、関東はスイミング。 スポーツにも地域性



Benesse 教育研究開発センター 研究員 鈴木尚子

### 北海道はスキー、関東はスイミング？

県民性やご当地検定など地域にまつわる話題は多くあります。では、スポーツにも地域性はあるのでしょうか。ここでは、小学生のスポーツの状況について、「地域」をキーワードにして考えてみましょう。

小学生が定期的に行うスポーツの状況は図2-1です。関東では活動率が7割と、6割の中国、九州、東北などに比べて高くなっています。行うスポーツの種類も、北海道はスキー、関東はスイミングというように地域による特色があります。

北海道では他の地域に比べてスキーの環境が整備されていることは想像できます。整った環境のなかで、子どもがスキーに親しむのは当然でしょう。ところが、関東でスイミングが多いのはなぜでしょうか。なかなか説明がつかえません。大都市や小都市など、とりまく都市の規模とも関係がありそうです。

地域によってあらわれたスポーツ活動の違いを読みとくために、Benesse教育研究開発センターが2009年に行った「学校外教育活動に関する調査」をいくつかの角度からみてみましょう。そのひとつは母親の教育意識で、もうひとつは子どものスポーツの担い手です。

### 大きな都市でより高い教育熱

大きな都市ほどスポーツは活発なようです（図2-2）。母親の意識をみると「親の教育への熱心さが、子どもの将来を左右する」「子どもの将来を考えると、習い事や塾に通わせないと不安である」など、親の教育熱は大きな都市のほうが高い傾向にあります（図2-3）。これが大きな都市ほど習い事としてのスポーツが活発なことと関係がありそうです。

スポーツの習い事を選ぶときには、家からの距離や費用の問題など、いくつかの条件があります（図2-4）。しかし、このような条件がありつつも、ほぼ100%の親が「子どもが身体を動かす機会を増やしたい」と考えています（『子どものスポーツ・芸術・学習活動データブック』p.13より）。この思いに地域差はありません。親は条件さえ合えば、子どもをスポーツ活動に送りだしたいと考えています。

## 小さな都市のスポーツを支える非民間の担い手

小学生の習い事としてのスポーツがどのような場で行われているかをみると、大きな都市では6割近くが民間経営の施設・サービスです（図2-5）。それに対して、小さな都市では地域ボランティア運営、自治体・公益法人運営、学校の部活動など、民間以外の団体が他よりも多いことがわかります。

大きな都市での習い事への意欲を支えているのが民間経営の施設とすれば、子どもが身体を動かす機会を増やしたいと考える親の希望を小さな都市で支えているのは地域、自治体・公益法人、学校など非民間の担い手といえます。

民間以外の団体に活動を行う費用は、民間経営で活動する費用よりも少なく済みます（図2-6）。家庭にかかる経済的な負担を軽くすることも、子どものスポーツ活動を広げる大切なポイントでしょう。

## スポーツの地域差の解消にむけて

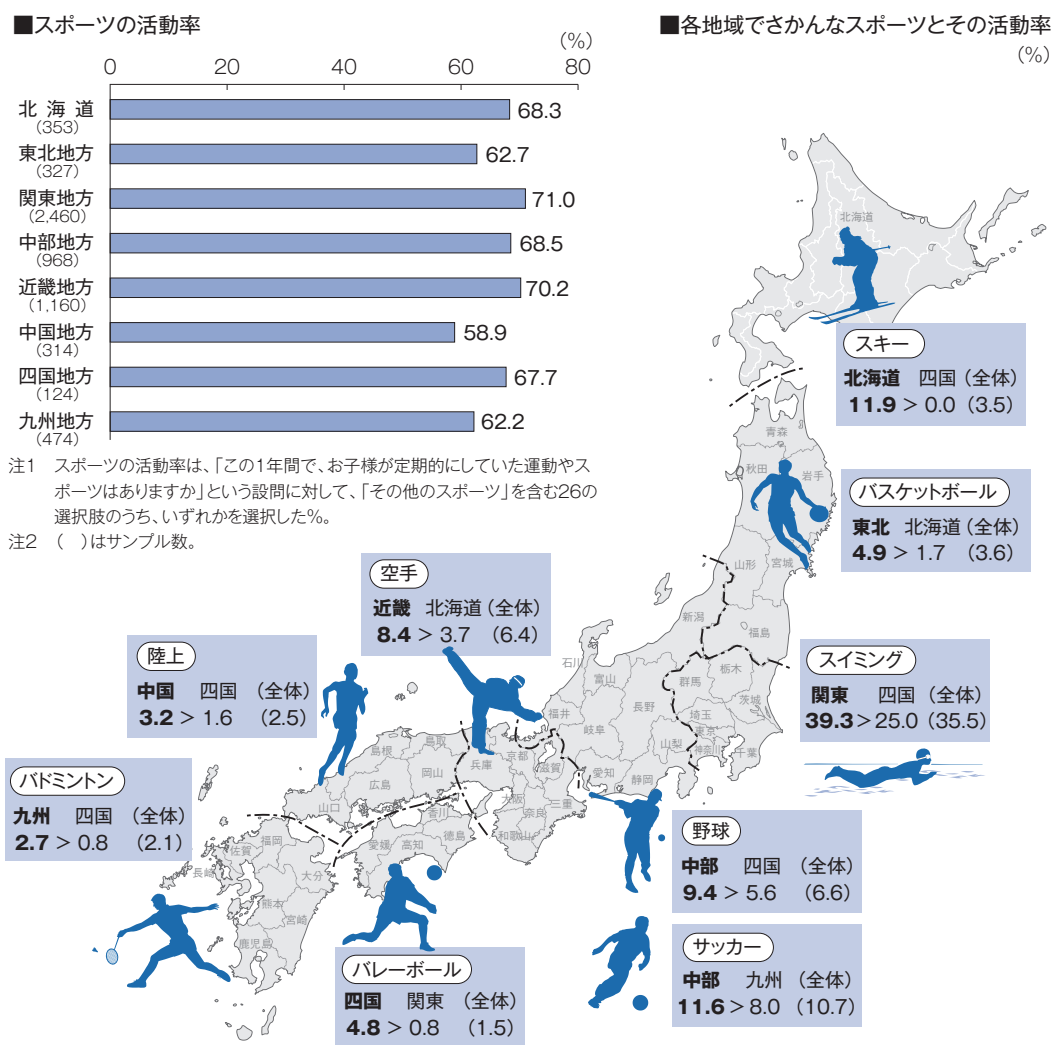
ほとんどの母親は、子どもには運動を通じてからだを動かす喜びを感じたり、じょうぶで健康な身体を育んだりしてほしいと願っています。でも、その機会が地域によって偏っているという現実があります。

そのような現状を踏まえて、身体を動かす場をどのように用意するかを家庭でも考えてみてはどうでしょうか。



# (1) 北海道はスキー、関東はスイミング？

図2-1 スポーツの活動率と各地域でさかんなスポーツ(小学生/地域別)



注1 スポーツの活動率は、「この1年間で、お子様が定期的にしていただいていた運動やスポーツはありますか」という設問に対して、「その他のスポーツ」を含む26の選択肢のうち、いずれかを選択した%。

注2 ( )はサンプル数。

注 各地域でさかんなスポーツは、**最大値**と**最小値**を示した。( )内は小学生全体での該当スポーツの活動率。

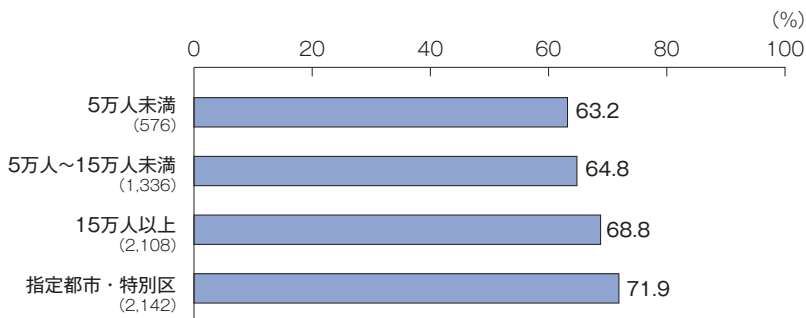
小学生の放課後のスポーツの状況(図2-1)は、一番活発な関東地方は71.0%で、その反対に中国地方は58.9%というように、地域によって違いがみられます。近畿、中部地方は、関東の次に活発です。

では、どんなスポーツをしているのでしょうか。地域別にみますと、北海道はスキー、東北はバスケ、関東はスイミング、中部は野球やサッカー、近畿は空手、中国は陸上やマラソン、四国はバレー、九州はバドミントンというように、どの地域にも活発なスポーツが浮かび上がります。

北海道のスキーのように気候による説明がつくものもあれば、「なぜ?」と考えてしまうものもあります。地域にスポーツを提供してくれる機会や場があるかないかも関係がありそうです。

## (2) 大きな都市ほど教育熱が高く、スポーツ活動がさかん

図2-2 スポーツの活動率(小学生/人口規模別)

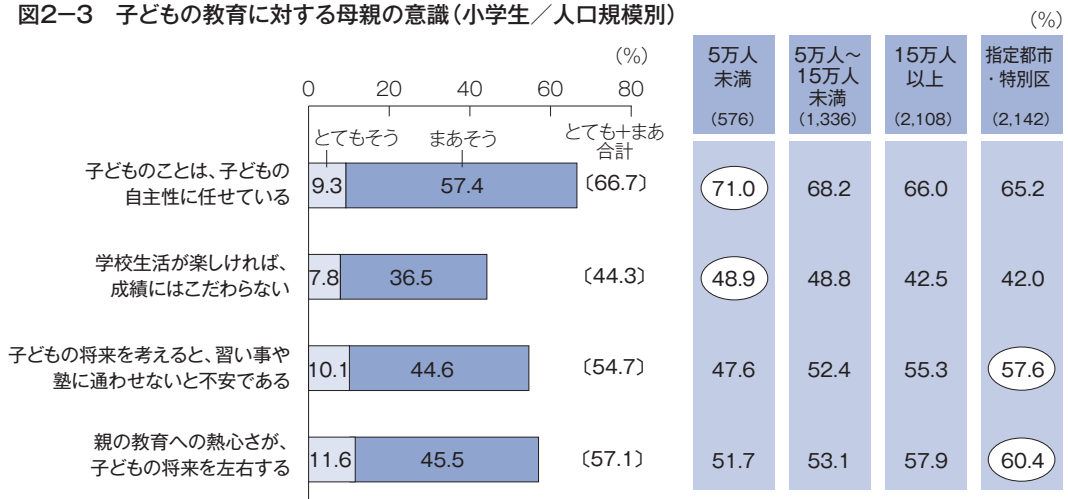


注1 スポーツの活動率は、「この1年間で、お様が定期的に行っていた運動やスポーツはありますか」という設問に対して、「その他のスポーツ」を含む26の選択肢のうち、いずれかを選択した%。

注2 人口規模は、保護者が回答した居住地域の都道府県・市区町村名により人口を特定・算出した(総務省統計局編「統計でみる市区町村のすがた2007」(財)日本統計協会、2007年の人口データを使用)。(図2-3も同様)

注3 ( )はサンプル数。

図2-3 子どもの教育に対する母親の意識(小学生/人口規模別)



注1 人口規模別の比率は「とてもそう+まあそう」の%。

注2 表中 ○ は人口規模別で最大値。

注3 ( )はサンプル数。

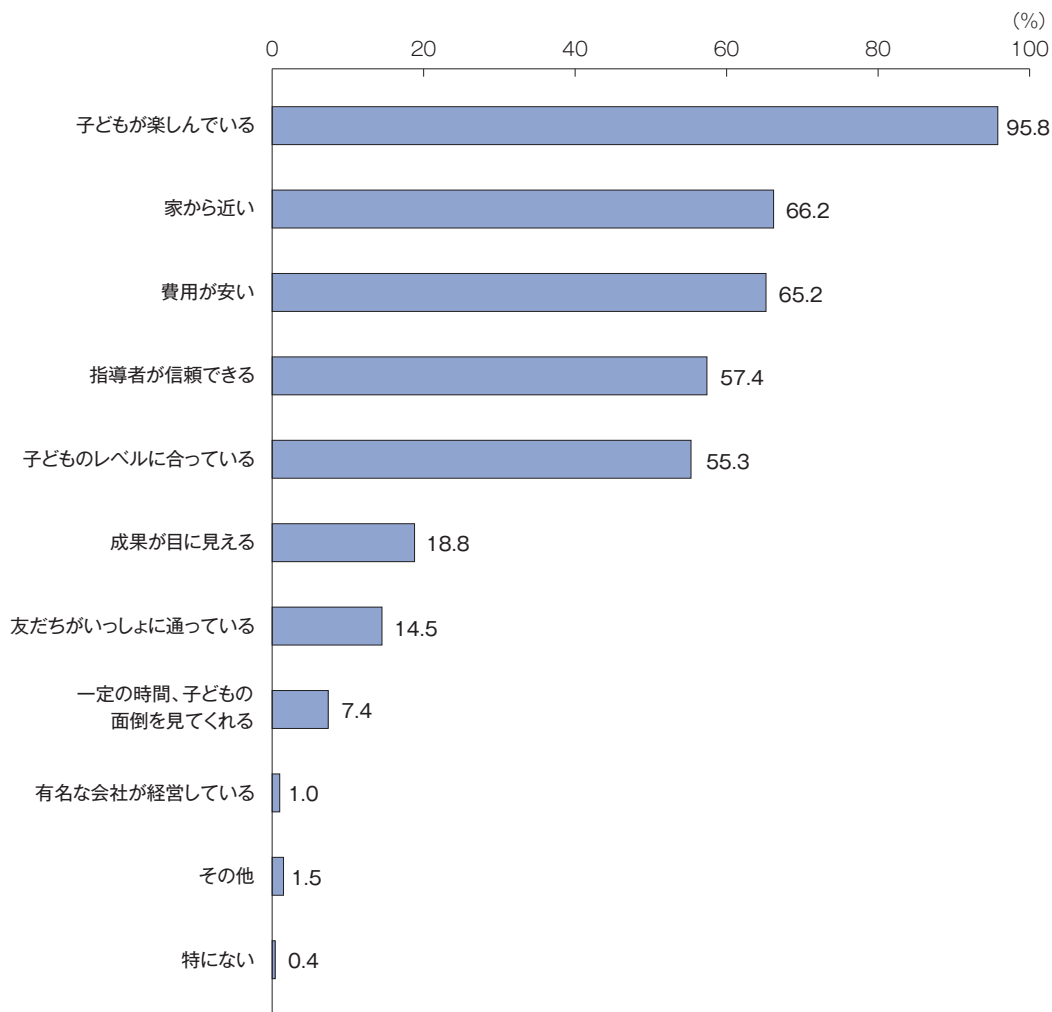
地域によるスポーツの差がどうして生じるのか、都市の大きさを分けて考えてみました(図2-2)。まず、習い事としてのスポーツの状況を比較してみると、大きな都市ほど、スポーツがさかんなようです。

では、母親の意識には違いがみられるのでしょうか(図2-3)。「子どもの将来を考えると、習い事や塾に通わせないと不安である」「親の教育への熱心さが、子どもの将来を左右する」など、大きな都市では不安感が高く、教育熱が高いことがわかります。

大きな都市では、親の不安感や教育への熱意が高く、実際に子どもを習い事に向かわせています。

### (3) 「子どもが楽しんでいる」ことは スポーツの習い事の条件No.1

図2-4 習い事を選ぶときに重視する点(小学生)



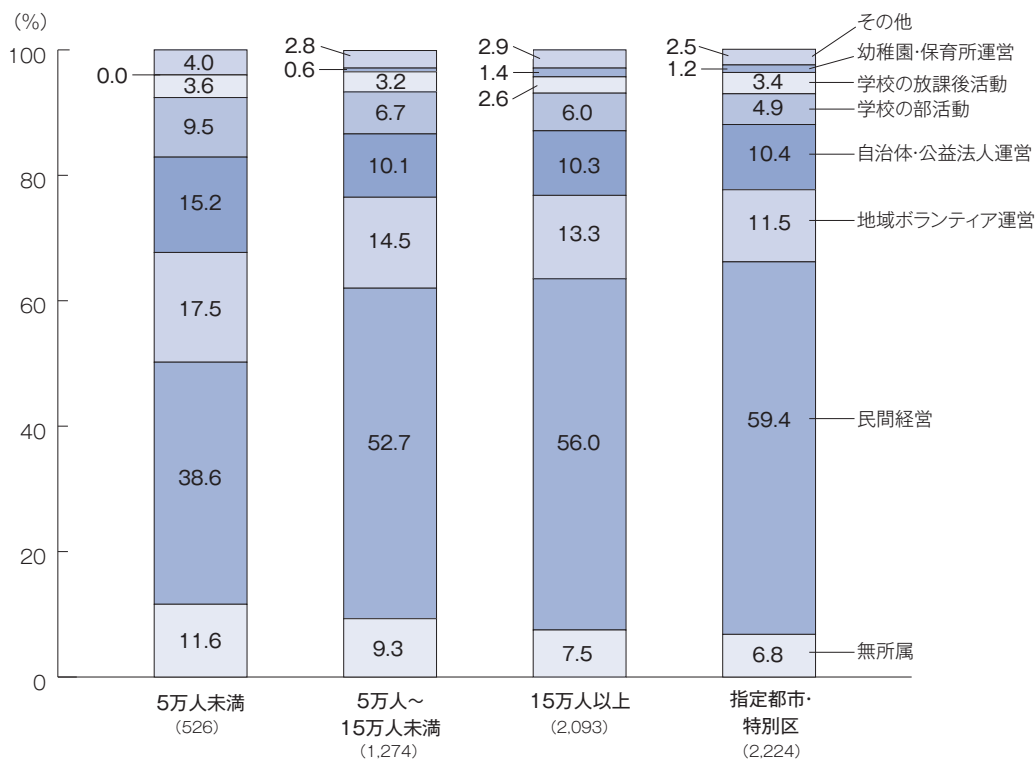
注 複数回答。

運動・スポーツの習い事を選ぶときに、親はどのような点を重視しているのでしょうか(図2-4)。一番重視されているのは、「子どもが楽しんでいる」です。「家から近い」「費用が安い」かどうか、3人に2人が重視しています。さらに、「指導者が信頼できる」「子どものレベルに合っている」は半数以上の親が重視しています。

条件に合う習い事がみつからなければ、子どもを運動に通わせることが難しくなります。しかし、99.0%の母親は「子どもの身体を動かす機会を増やしたい」と回答していて、この思いは都市の大きさにかかわらず共通です。条件さえ合えば、親は子どもを運動に送りだすでしょう。

## (4) 大きな都市は民間団体が支え、 小さな都市は非民間団体が支える

図2-5 子どものスポーツの担い手(小学生/人口規模別)



注1 スポーツ活動をしている人の所属団体をすべて足し合わせて算出した。同じ人が複数活動している場合は、それぞれについて1としてカウントしている。

注2 「無所属」は「団体には所属していない(保護者が指導・個人の趣味など)」、「民間経営」は「民間企業が経営する団体・教室」「個人が経営する団体・教室」を合わせた数値、「地域ボランティア運営」は「地域や保護者のボランティアが行っている団体・教室」、「自治体・公益法人運営」は「自治体が運営する団体・教室」「公益法人やNPO法人が運営する団体・教室」を合わせた数値、「幼稚園・保育所運営」は「幼稚園・保育所の活動(有料のもの)」を示す。

注3 人口規模は、保護者が回答した居住地域の都道府県・市区町村名により人口を特定・算出した(総務省統計局編『統計でみる市区町村のすがた2007』(財)日本統計協会、2007年の人口データを使用)。

注4 ( )はサンプル数。

そんな親の思いを小さな都市で支えているのは、地域ボランティア、自治体や公益法人、学校など、民間以外の担い手です。

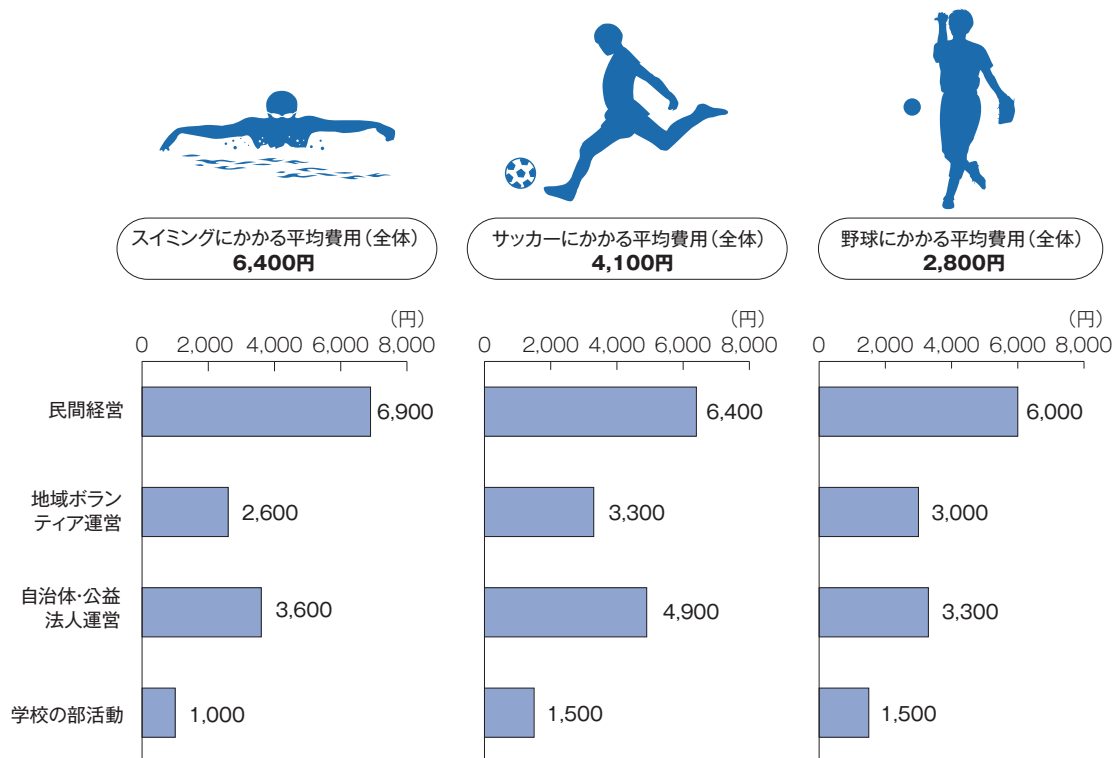
子どもはどのような団体で活動をしているのでしょうか。「民間経営」55.1%、「地域ボランティア運営」13.2%、「自治体・公益法人運営」10.7%と、小学生全体では民間経営による場が一番多いという結果です(『子どものスポーツ・芸術・学習活動データブック』p.12より)。

都市の大きさに分けてみると、民間企業や個人経営など「民間経営」の比率は、「指定都市・特別区」の59.4%に対し、「5万人未満」では38.6%です(図2-5)。「5万人未満」では、むしろ非民間団体が多いことがわかります。大きな都市の親の熱意に応えるのが民間の団体だとすれば、「5万人未満」のように小さな都市では、非民間の団体が小学生の子どもの運動を支えているといえます。

## (補足) 習い事にかかる費用

—スイミング6,400円、サッカー 4,100円、野球2,800円 —

図2-6 各スポーツにかかる月あたり平均費用(小学生/所属団体別)



注1 各スポーツの平均費用は、そのスポーツをしている人のみ対象。

注2 所属団体のうち、無所属、学校の放課後活動、幼稚園・保育所運営、その他は省略した。

注3 サンプル数は次の通り。

スイミング：全体2,195名、民間経営1,881名、地域ボランティア運営29名、自治体・公益法人200名、学校の部活動5名。

サッカー：全体658名、民間経営210名、地域ボランティア運営197名、自治体・公益法人75名、学校の部活動62名。

野球：全体406名、民間経営35名、地域ボランティア運営202名、自治体・公益法人38名、学校の部活動44名。

小学生に人気のスイミング、サッカー、野球にかかる平均費用を所属団体別に表したのが図2-6です。民間が中心になって提供しているスイミングは、活動している人全体の平均費用も6,400円とサッカーや野球に比べてお金がかかる活動になっています。

いずれのスポーツも、民間経営団体の場合にはひと月あたり6,000円以上かかります。地域ボランティア運営の場合は2,600円～3,300円、自治体・公益法人運営の場合はそれより少し高めで3,300円～4,900円、学校の部活動の場合は1,000円～1,500円かかります。

スポーツをする際、どのような団体・施設で行うかによる差は大きく、民間経営の団体でこれらの習い事をする場合には、ひと月あたり6,000円程度はかかるようです。